

前回の審議会におけるご意見とその反映状況について①			
章	項目	主なご意見	反映状況（対応案）
I	4 計画の目標	次期計画の期間中には、年齢を重ねても労働参加を続け、労働力人口を支えてきた団塊の世代も後期高齢者となり、さすがに労働力市場から退出することが見込まれることから、労働力人口について、必ずしも右肩上がりにこだわらない数値目標の検討が必要。（桑原委員）	・人口減少の著しい本道において、今後、労働力人口（数）の増加は見込めないため、目標は（率）で整理することを検討。
II	雇用を取り巻く状況（3）雇用情勢等	半導体関連産業やデータセンターなどデジタル産業の集積促進といった本道経済に影響のある動きに留意する、とあるが、地方だけでなくその近郊に影響を与えるということが考えられるので、ぜひ触れていただきたい。（山田委員）	・半導体関係については、今後の「北海道半導体産業振興ビジョン」（道次世代半導体戦略室）の策定状況を踏まえ、記載できることを検討。
III	1-（5） 知識・技能の習得・向上	理系人材の育成・確保の中で、女性の活躍についてもしっかり念頭に置きながら、確保を進めていただきたい。（光崎委員）	・「主な取組」において、記載内容を検討。
	2-（1） 労働時間や待遇などの改善	働く側の意識が高まりを見せている一方で、使用者側の意識がまだ追いついていないので、引き続き、ワークルールを周知していくなど、ハラスメント防止対策の取り組みを求めたい。（光崎委員）	・「主な取組」において、ハラスメントの防止に係る取組を記載することを検討。
		カスハラや就活ハラスメントなどもあることから、包括した表現として「あらゆるハラスメントの防止」として欲しい。（山田委員）	・骨子案に反映済み（「あらゆるハラスメント」と記載）。
		最低賃金が上がっても、就労時間を調整しなくてもいいように、働いている人も企業も良い関係でいられるような対策を今後とも続けて欲しい。（藤原委員）	・社会保険等に関係する国の制度であり、今後の国の動向や雇用情勢への影響等について注視していく。
2-（2） 多様で柔軟な働き方がしやすい環境の整備	・短時間勤務について、どこかに記載して欲しい。 ・子育て等で離職しても（短時間勤務制度などを活用して）復帰することが重要であることから、40歳以降のところも指標として検討して欲しい。（朝倉委員）	・骨子案に反映済み（「短時間勤務など」と記載）。 ・女性の就業率（40～44歳）について、その他取組指標とすることを検討。	

前回の審議会におけるご意見とその反映状況について②			
章	項目	主なご意見	反映状況（対応案）
Ⅲ	2-（3） 子育て・介護・治療と仕事の両立支援	男性も子育てと仕事、女性も子育てと仕事、そういった意識でやっていると、いつまでたっても男性が子育てするのは手伝い、みたいな意識から抜け出せないと思う。やはりそこは男女ともに子育てと仕事をするという意識を持って計画を立てていただきたい。（藤原委員）	・「施策の方向性」（前段）若しくは「主な取組」において、記載内容を検討。
	3-（2） 地域産業の付加価値向上や省力化・効率化	省力化・効率化だけではなく、省人化まで考えていかないと企業は多分追いついていかないので、視野に入れて欲しい。（藤原委員）	・雇用に係る計画であることから、省人化という表現ではなく、現計画に記載のあるとおり、生産性の向上、という表現について、引き続き記載することを検討。
	3-（5） 道外・海外からの投資促進	投資の促進の中で、カーボンニュートラル、DXとあり、カーボンニュートラル達成のためかと思うが、GXも含めて、カーボンニュートラルを達成するために、GX、DXを絡めて投資を呼び込みましょう、という表現の方が良いのではないかと（車の両輪としてGXという表現も入れて欲しい）。（山田委員）	・骨子案に反映済み（「カーボンニュートラルへ向けたグリーントランスフォーメーション」と記載）。
Ⅳ	（関連指標）	女性の労働参加に係る関連指標について、女性のキャリアアップや働き方改革（労働時間抑制）の観点から、正規雇用比率を追加していただきたい。（駒川委員）	・女性正規雇用比率について、目標達成に向けた関連指標とすることを検討。
他	（計画の周知）	制度や取組について、（中小企業など）現場に届いていないのが実感。しっかりと周知して、草の根で進めて欲しい。（光崎委員）	・経済団体等をはじめ関係機関の協力をいただき、周知に努めていくことを検討。